

的な知識と経験が乏しく、能力も足りない。循環経済の発展はまだ各レベルの政府の議事日程には乗せられていない。第二に、関係法律や法規及び政策システムは整備されていない。第三に、多数の技術的な障壁が存在している。

1.2 中国における循環経済の出現

中国の経済発展に伴って、経済発展の質を高める要求は日増しに高くなった。遼寧などは循環経済省を、海南省は生態省、浙江省は緑の浙江を建設しようとしている。要するに、経済発展とともに環境保全も多くの人たちに受け入れられ、人間と自然との調和を重んじる観念は多くの人々に認められた。循環経済省にしても、生態省や緑の省にしても、本質的には同じであり、即ち経済発展を速めると同時に環境をよく保全し、中国 21 世紀の偉大な発展目標を達成するのが目的である。

改革開放後の飛躍的な経済発展は深刻な環境汚染をもたらしてきた。持続可能な発展戦略の実施はすでに中国の基本的な国策になっている。中国はクリーンプロダクションをたゆまずに推進し、注目を集めるような成果を収めた。全国数百の企業の実践から成功した経験とやり方を多数蓄積してきたが、障碍と問題もなお存在している。最近、一部の省と市には生態省或いは循環経済建設に取り掛かる新しい動きがあり、これはたいへん喜ばしいことである。

中国では 90 年代の初め頃から生態工業エリアに関する報道が現われた。例えば、「デンマークカopenhagen市に生態工業エリアが完成」、「工業生態学の原理で都市汚染問題を解決する」、「21 世紀に向けた工業生態システム」、「循環経済は経済と環境利益をともに備え、ともに成功する経済である」⁴などがあった。1995～1996 年の淮河汚染改善の時、国家環境保護総局外経弁公室と環境経済政策研究センターは生態工業エリア案を採択しようと考えたが、事情があつて実施できなかった。90 年代の末期に至って、中国環境科学研究院は貴陽製糖工場をもとに、まず貴港生態工業エリアを建設し、これに基づいて次第に循環経済へ発展してきた。2001～2002 年に曲格平主任と解振華局長はそれぞれ講話と文章を発表し、循環経済が 21 世紀の中国の経済発展における重要な選択であると指摘して以来、循環経済の発展が中国の大地でブームになった。

⁴ 曹鳳中「21 世紀に向けた生態工業システム」『緑のブーム』中国環境科学出版社 1998 年 12 月 P.99～102

中国現在の資源と生態環境状況の深刻さからみると、全面的な小康社会建設目標を達成し、産業化の新しい道の要求に満たすには、循環経済の発展は中国未来の社会経済の持続可能な発展のための最もよいモデルとして選択できる。

中国は20世紀80年代から工業、鉱業企業の廃棄物総合利用を重視し始めた。90年代に入って、末端排出源の改善から発生源の改善と全過程の規制へ変わり始め、循環経済理論の指導のもとでクリーナープロダクションを開拓してきた。ここ数年、循環経済は中国で広く注目を集めている。特にクリーナープロダクションに基づき工業生態モデルエリアの建設を始め、各地では循環経済の実践を開拓してきた。例えば広西貴港国家級生態工業モデルエリアは、貴糖株式会社を中心に、サトウキビ畠と製糖システム、アルコールシステム、製紙システム、熱・電力連合生産システム、環境総合処理システムを連結した枠組みを構築し、エリア内で資源の最適な配置を実現した。遼寧省は旧工業地区の再建設と連携して、全省の5都市で循環経済の試験点活動を開拓した。江蘇省は工業が比較的に発達している地域での循環経済システム構築模範になった。貴陽市は循環経済型エコシティの建設を中心に、循環経済の理念に従って新区建設と二ヵ所の工業エリア循環経済試験を行なっている。広東省海南省は循環経済理念に従い、生態工業エリア建設計画を作り、環境産業エリア建設を生態工業エリア建設と有機的に結合させ、経済と環境両方の成功を図ろうとしている。山東省青島市、日照市なども循環経済モデルエリアの建設を開拓しており、工業や農業、社会消費など、各レベルから循環経済の試験活動を行なっている。

1.3 中国における循環経済の実践

中国の循環経済は広報や実践などの立ち上げ段階から政策メカニズムを確立しようとする推進段階に入りつつある。外国の経験を参考にし、生産と交換、分配、消費などの経済再生産の全過程で資源の循環利用を有効に向上させる制度を確立することは、中国の循環経済発展の推進に重要な現実的意義をもつていている。

80年代の初期から中国ではクリーナープロダクション推進活動が見られた。90年代から現在までの十数年間、中国ではクリーナープロダクションと循環経済を推進する勢いがますます強くなり、その範囲は企業レベルから次第に生態